



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 364

November 2021

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

NPO法人 神戸日独協会主催「日独修好160周年記念事業」

神戸日独協会 — 新時代の日独交流をめざして

JDG Kobe — Japanisch-deutscher Austausch heute

昨年からのコロナ禍のためにそれ以前とは異なる不自由な日々を余儀なくされてきましたが、今年「日独修好160周年」を迎えていました。先月来全国的にコロナ感染の減少状態が続き、諸規制も解除・緩和されるようになりました。神戸日独協会はこれまで感染予防のために主要な活動を自粛してきましたが、感染の現状とそれに対する社会状況に鑑みて、活動再開後の最初の事業として「日独修好160周年記念事業」を行うこととしました。

神戸日独協会は、2011年の「日独修好150周年」では記念事業として講演会・展示「神戸での日独交流150年～過去、現在、そして未来へ」を開催しました。この記念事業で神戸での150年の日独交流の歴史を振り返り、グローバル化の進展していた当時の神戸における日独交流の未来像を展望しました。

150周年以後の10年間で日本でもドイツでも気候温暖化による環境保護意識の高まり、エネルギーの転換、IT技術の急速な発達等による産業構造及び生活意識の変革が生じました。更に昨年来の新型コロナウイルスの感染拡大も加わり、神戸とドイツの間での産業及び人の交流はこの過去10年間で大きな変容を遂げ、コロナ禍後はこれまでとは異なる交流が予想されます。

神戸日独協会は日独交流160周年を機に、神戸における新しき技術及び産業を理解してドイツに発信し、それと共にドイツにおけるそれをも受信し、これからの神戸での日独交流の新しき発展を日独両サイドから展望します。さらにコロナ禍での神戸とドイツとの人的交流を活発化する可能性をも展望します。

協会の160周年記念の主意から「日独修好160周年記念講演会」„160 Jahre Japanisch-deutscher Austausch Jubiläumsvorträge“を開催します。講演会は、「日独修好160周年祝賀」と「神戸での日独交流の展望～先端技術・産業の紹介」の二部構成で行います。講演会はオンラインの導入により広く市民へ、そしてドイツへも発信します。講演会の詳細については、ご案内をご

覧ください。

なお、今年の夏以来協会の若手会員のグループであるGJGによって、コロナ禍での、コロナ禍後のドイツの若者との活発な交流を目指して、「今の神戸」を発信するための活動を行っています。この活動成果の発表の機会をも後日に持つ予定です。

この「日独交流160周年」をきっかけとして、協会は活動を再び活発に行なって行きます

Japanisch-Deutsche Gesellschaft Kobe

Veranstaltung zum Jubiläum

"160 Jahre freundschaftliche Beziehungen zwischen Deutschland und Japan".

„JDG Kobe – Japanisch-deutscher Austausch heute“

Nach langer Zeit Corona-bedingter Einschränkungen, von denen auch die Aktivitäten der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kobe betroffen waren, sind seit dem letzten Monat die Infektionszahlen so weit zurückgegangen, dass wieder unter bestimmten Voraussetzungen mit Veranstaltungen begonnen werden kann. Wir feiern dieses Jahr das Jubiläum "160 Jahre freundschaftliche Beziehungen zwischen Deutschland und Japan", und haben uns daher entschlossen, mit einer Vortragsveranstaltung zu diesem Jubiläum, unsere Aktivitäten wieder aufzunehmen.

Im Jahr 2011 zum 150-jährigen Jubiläum hat die Japanisch-Deutsche Gesellschaft Kobe eine Vortragsreihe, sowie eine Ausstellung zum Thema "150 Jahre deutsch-japanische Beziehungen in Kobe, Vergangenheit, Gegenwart und Zukunft" veranstaltet. Neben historischen Betrachtungen stand die Frage nach Möglichkeiten des japanisch-deutschen Austausches im Zeitalter der Globalisierung im Mittelpunkt. Die 10 Jahre, die seither vergangen sind, brachten in beiden Ländern große Veränderungen im Umweltbewusstsein, der Energiepolitik, der Entwicklung der Informationstechnologien, der Entwicklung der Industrie, sowie auch im Lebensstil mit sich. Hinzu kam in den letzten Jahren die Corona-Krise, die zu weiteren, bisher unbekanntem Veränderungen führte und noch führen wird.

Zum Anlass des 160-jährigen Jubiläums versucht die Japanisch-Deutsche Gesellschaft Kobe nun einen Blick auf neue Möglichkeiten der Beziehungen und des Austausches zu werfen. Wir haben Vertreter aus der Diplomatie, die Leiter der Ämter für internationale Beziehungen der Präfektur Hyogo und der Stadt Kobe, Vertreter von Betrieben, die eine führende Rolle in der Entwicklung neuer Technologien einnehmen, sowie die Präsidentin unserer Partnergesellschaft, der Deutsch-Japanischen Gesellschaft Schleswig-Holstein, um Vorträge und Videobotschaften zu diesem Thema gebeten.

Innerhalb der Japanisch-Deutschen Gesellschaft arbeitet eine Gruppe jüngerer Mitglieder seit dem letzten Sommer daran, Informationen zu neuen, interessanten Aktivitäten in Kobe zu sammeln, um damit vor allem auch dem Austausch zwischen jungen Personen in Japan und Deutschland einen neuen Anstoß geben zu können, sobald sich die Lage der Pandemie wieder beruhigt hat. Einige Ergebnisse davon werden in dieser Veranstaltung vorgestellt.

Alle Beiträge werden, um sie einem breiteren Publikum in Japan wie auch in Deutschland zugänglich zu machen, auch online übertragen.

Die Japanisch-Deutsche Gesellschaft Kobe hofft damit einen Beitrag zur Wiederbelegung des Austauschs zwischen Japan und Deutschland leisten zu können.

日独交流160周年記念講演会

160 Jahre Japanisch-deutscher Austausch Jubiläumsvorträge

第一部 日独修好160周年祝賀

記念講演

「ドイツ政府インド太平洋ガイドラインでの大切なパートナーとしてのドイツと日本」

大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事 Martin Eberts 氏

祝賀メッセージ

元ドイツ総領事 Alexander Olbrich 氏

シュレスヴィヒ・ホルシュタイン独日協会会長 Monika Reißblandt 氏

(記念講演、祝賀メッセージは通訳付き)

カフェーパウゼ パネル展示「持続可能な兵庫に向けて～環境・産業・生活から～」紹介

第二部 神戸での日独交流の展望～先端技術・産業の紹介

兵庫県の日独交流と今後の展望

兵庫県産業労働部国際局長 横川 太氏 (神戸日独協会理事)

神戸市の日独交流と今後の展望

神戸市市長室国際部長 檀特竜王氏 (神戸日独協会理事)

神戸の水素産業 —国際水素サプライチェーン構築に向けた取り組み—

川崎重工業株式会社水素戦略本部プロジェクト総括部推進部担当部長 小山 優氏

神戸の医療産業 —シスメックスの取り組み—

シスメックス株式会社グローバルマネジメント本部長 赤松慎治郎氏 (神戸日独協会副会長)

日 時: 2021年11月27日(土)17:00～20:30

会 場: 神戸倶楽部 (神戸市中央区北野町4-15-1)

参加者: 神戸日独協会会員及び家族と関係者

非参加会員及び非会員へはオンライン発信

参加定員: 50名(テーブル着席、各テーブル4名) 定員になり次第締め切らせていただきます

参加費: 2,000円(飲物軽食代・資料代) 当日会場でお支払いください

申 込: 会場参加、オンライン参加とも事前申込制

11月24日まで [TEL:078-230-8150](tel:078-230-8150)、メール: info@jdg-kobe.org にて

協会事務室へお申込み下さい

感染対策: 会場入場時の検温・手指消毒及び講演時のマスク着用の徹底を図る

新型コロナウイルス感染予防のために参加人数などの制限をさせていただきます。

オンライン(ZOOM)発信をしますので、対面形式をご希望されない方はオンラインをご利用ください。

公開講演会ですので、非会員の方もオンラインでご参加ください。



11160 Jahre Japanisch-deutscher Austausch Jubiläumsvorträge



Veranstaltung der Japanischen-Deutschen Gesellschaft Kobe

mit Unterstützung durch das Generalkonsulat der Bundesrepublik Deutschland Osaka/Kobe

Teil I

Jubiläumsvortrag „Deutschland und Japan als Wertepartner im Rahmen der
Leitlinien der Bundesregierung für den Indo-Pazifik“

Martin Eberts, Generalkonsul, Leiter des Generalkonsulats der Bundesrepublik Deutschland
Osaka-Kobe

Grußbotschaften

Alexander Olbrich, ehem. Generalkonsul der Bundesrepublik Deutschland in Osaka-Kobe, ehem.
Botschafter der Bundesrepublik Deutschland in Ecuador.

Monika Reißlandt, Vorsitzende der Deutsch-Japanischen Gesellschaft Schleswig-Holstein

Kaffeepause mit Präsentation „Hyogo auf dem Weg zu nachhaltigem Lebensstil und nachhaltigen
Produktionsformen“

Teil II Ausblicke auf japanisch-deutschen Austausch in Hyogo und Kobe -Neueste
Technologien und Produktionsformen

- Ausblick auf den zukünftigen japanisch-deutschen Austausch in der Präfektur Hyogo
Futoshi Yokokawa, Leiter des Internationalen Amtes für Industrie und Arbeit der Präfektur Hyogo
- Ausblick auf den zukünftigen japanisch-deutschen Austausch in Kobe
Tatsuo Dantoku, Leiter des Amtes für Internationale Angelegenheiten im Bürgermeisterbüro der
Stadt Kobe
- Wasserstoffindustrie in Kobe - Maßnahmen zur Errichtung eines internationalen
Wasserstoffversorgungsnetzes
Suguru Oyama, Senior Staff Officer Project Department Project Group Hydrogen Strategy
Division Kawasaki Heavy Industries, Ltd.
- Medizinische Industrie in Kobe am Beispiel von Sysmex
Shinjirou Akamatsu, Executive Vice President Global Management Sysmex Corporation

Zeit: 27. 11. 2011 (Sa.) 17.00 bis 20.30

Ort: Kobe-Klub (Kitanomachi 4-15-1, Chuo-ku, Kobe)

TeilnehmerInnen: Mitglieder der JDG Kobe und Angehörige (bis zu 50 Personen,
entsprechend den Corona-Regeln für Veranstaltungen). Allgemein zugängliche
Onlineübertragung

Teilnahmekosten: 2000Yen (inkl. Getränk und kleinem Snack.)

Die Teilnahme online (per ZOOM) ist kostenlos.

Voranmeldung für Teilnahme vor Ort sowie Online-Teilnahme bis 24.11. 2021 unter
Tel.: 078-230-8150 oder info@jdg-kobe.org

Corona-Maßnahmen: Messung der Körpertemperatur und Desinfektion der Hände
beim Eintritt, sowie das Tragen einer Maske ist während der ganzen Veranstaltung
verpflichtend.

日独修好160周年記念「ドイツ映画祭」のご案内

神戸日独協会は、日独修好160周年を記念して神戸リガッタ・アンド・アスレチック・倶楽部(KR&AC)と共に「ドイツ映画祭」を開催します。

上映作品は「パウルとパウラの伝説 Die Legende von Paul und Paula」(ドイツ語、日本語字幕付き、上映時間約2時間10分)。1973年の制作で300万人を越す観客を動員したヒット作です。入場者には景品(くじ引き)も用意されています。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

日 時: 2021年11月21日(日)14時開演

場 所: 神戸リガッタ・アンド・アスレチック・倶楽部(KR&AC)クラブハウス2階ホール
神戸市中央区八幡通2-1-20(磯上公園内) 神戸国際会館から南東へ徒歩約5分

入場料: 無料ですが、飲み物代(コーヒー、紅茶)として500円

後援公演のご案内

令和3年度兵庫県立ピッコロ劇団ファミリー劇場

グリム兄弟！ ～みんなのメルヘン きかせてダンケ～

会報6月号でご案内しました後援公演兵庫県立ピッコロ劇団ファミリー劇場「グリム兄弟！～みんなのメルヘン きかせてダンケ～」が、クリスマスに兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホールで再び公演されます。前回ご紹介した8月公演は未だウイルス感染の広がっていた時でした。感染も減少してきたクリスマスに、お子さん、お孫さんと一緒に「グリム童話集」を題材とした公演をお楽しみください。今回も神戸日独協会会員は特別斡旋価格(1割引、ピッコロシアターに電話・メール予約の場合のみ)で鑑賞できます。詳しくは、同封のパンフレットをご覧ください。

公演劇場: 兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール(阪急神戸線西宮北口駅下車)

公演日時: 2021年12月25日(土) 15時 12月26日(日) 11時/15時

料 金: 一般3,000円 高校生以下1,500円 セット券(一般+高校生以下) 4,000円
全席指定(税込)、3歳以上有料

予約方法: チケット予約の際に「神戸日独協会扱い」と申し出る。

電話 06-6426-8088 ピッコロシアター「グリム兄弟！チケット係」まで

メール gekidan-p@hyogo-arts.or.jp 件名「グリム兄弟予約チケット」

- ① 予約者氏名 ② 電話番号・住所 ③ ご観劇日時 ④ 券の種類・枚数 ⑤ 観劇する全員の氏名を明記

問合せ先: ピッコロ劇団 TEL 06-6426-8088 (月曜休館)

会員による企画

「手作りでドイツ風クリスマスを迎えませんか」

神戸日独協会の恒例行事「クリスマス祝賀会」が昨年度はコロナ禍で残念ながら中止となりました。今年も10月1日から緊急事態宣言が解除となりましたがまだまだコロナ禍にあります。またしても感染悪化により自宅でのクリスマスとならざるを得ないかもしれません。

昨年は初めてのコロナ禍のために家庭でどのようにクリスマスを迎えるかの余裕もまだありませんでした。長いコロナ禍での生活を経験し、今年はこのコロナ禍でも何が出来るかの工夫を出来るようになりました。そこでドイツのクリスマスにご造詣のある方々のご協力を得て、会員の皆さんと一緒に「自宅でドイツの家庭でのような楽しいクリスマスを迎える」企画をしました。

クリスマスの伝統の料理やお菓子や嗜好品など、そしてクリスマスの食卓を彩るテーブルセッティングや小物等々をこれから約1カ月半の間に皆さんと一緒に準備をして、会員同士の「クリスマス祝賀」のために交流を深めるとともに、コロナ禍の影響が未だ残る中で、例年とは一味違うクリスマスを皆さんと迎えましょう。（注：家族のみならず友人同士の食卓も含まれます）

第1回 「我が家の手作りクリスマス食卓」

クリスマスの食卓を飾る「絵を描いてのランチオンマット・ネームカード・ハガキ」、「さつま芋の松ぼっくり」、「ナプキンフォールディング」と「木の実とスパイスのクリスマスツリーの額」を手作りします。講習後に「さつま芋の松ぼっくり」を皆でいただきます。

講師：小田 晶子さん、日下部管子さん、柘田節子さん

日時：12月4日(土)13:00～16:00

場所：神戸日独協会会議室

定員：10名

参加費：1000円(材料費+部屋使用料)

材料の準備は講師が行います。マスクの着用をお願いします。

会員の広場

このコーナーは、会報を通して会員相互の交流をしていただくための「広場」です。

ご投稿をお待ちしています。

(投稿規定：MSPゴシック12ポ、A4 1枚程度まで(多くの方に投稿していただくために、字数を厳守してください)、添付にて毎月第2月曜まで事務局へ)

Jena便り 住宅不足という社会問題の体験談

会員 竹中らら

Guten Tag! 竹中ららと申します。2021年冬セメスターより、Friedrich-Schiller-Universität Jena の修士課程で Deutsch als Fremdsprache / Deutsch als Zweitsprache (ドイツ

語教授法)を専攻しています。私は神戸大学大学院の国際文化学研究科でドイツ語を専攻した後、日本の小学校や中学校で英語や社会を教えていました。将来的にドイツ語教育に関わりたいと考え、ドイツ留学を決意しました。

この度、Jenaより寄稿させて頂ける機会を頂戴しました。こちらの生活で体験したことや考えたことをお伝えしたいと思います。

9月末に渡独してから、まず直面したのはドイツにおける住宅不足の問題でした。イエナのような東側に位置する中規模都市においても、この問題が深刻化していたのでした。

イエナ大学に入学が決まり、6月に学生寮に応募したものの、部屋を得られる見込みはないとの返事を受けていました。8月からはWG(Wohngemeinschaft というシェアハウス)や一般の不動産を含め幅広く探し始め、こちらに来てからは毎日のように何十件もの問い合わせを送信し、見学にも行くものの返事がないか断られるという状態でした。

この地域は家賃も比較的高いようです。見学したある部屋は、地下室の日が当たらず、A4のコピー用紙程の大きさの窓しかない空気も悪い場所でしたが月400ユーロしました。そのような部屋にも応募者が多数いるということでした。

近郊のワイマールやライプチヒまで足を伸ばし、道行く人々に部屋はないかと尋ねるなど、できる限りのことをしたつもりでした。

一年の中でも10月前後は、大学の入学などで住宅を探す人が多く、市内はホテルを含め予約が一杯になっていました。私自身もこの間、三度ホテルや友人の家を転々としました。

体力的にも疲弊し、もうだめなのかと諦めかけていたところ、10月の後半のある朝、学生寮の事務所より、12月から寮が一部屋だけ空いたというメールを受け取りました。

何という知らせだと、嬉しさより飛び上がってしまいました。毎日事務所に問い合わせのメールを送ると、まれに部屋が得られる場合があると聞いていたのです。

今後ドイツの大学に出願される方は、ぜひ4月1日(冬セメスターに出願の場合)もしくは10月1日(夏セメスター)のできるだけ早い時期に学生寮に応募することをお勧めいたします。入学許可がなくとも、寮は応募できる大学が多いです。部屋のタイプや立地にはあまり条件を付けない方が、部屋を得られる可能性は上がります。一人用のアパートや町の中心部の寮には、何セメスターもの待ち期間があるようです。

この文書を書いている今は11月の初旬です。少しずつ生活も落ち着き、学業に集中できるようになりました。

12月まで滞在するペンションは、イエナの北の Kunitz という村に位置します。昔の田舎の家々が残る静かな地域で、Goethe が Erlkönig(『魔王』)を作る着想を得た小道があります。ペンションを一步出て、黄色く色づいた落ち葉を踏み分けながら小道を登ると、„Hier war Goethe“と書かれた小さな看板がかかっています。

図らずもイエナの中心部から離れた村に来たところ、このような文化的な体験ができました。

ドイツの住宅不足という社会問題に巻き込まれたからこそ、私はこの小道にたどり着いたのかと思い、何事もポジティブに捉えようという気持ちになりました。今後ドイツでの生活で直面するであろう課題にも前向きに取り組んでいきたいです。

12月からはイエナの南の Lobeda という地区に移ります。人口の増加により開発されたイエナでも最も人口の多い地区の一つです。Kunitz とはまた違った雰囲気の中で、旧東ドイツ時代の Plattenbau(コンクリート製の高層集合住宅)が建ち並びます。ここでの生活についてや大学での勉強についても、またご報告ができればと思います。

それでは、今回はこの辺で失礼いたします。Tschüss!

Alles nicht mehr wie früher

Andrea Kehle-Jandl

Bericht die Mitgliederversammlung der Deutsch-Japanischen Gesellschaft Baden-Württemberg in Stuttgart am 17.9.2021.

Zum ersten Mal nach zwei Jahren wieder eine Mitgliederversammlung. Ein großer Saal darin in einem Kreis wenige Tische. Zur Teilnahme (mit Maske) erforderlich ist natürlich die Vorlage des Impf- bzw Testnachweises (sogenanntes 3 G: genesen, geimpft, getestet) , dann Desinfektionsmittel für die Hände und Eintrag in die Teilnehmer-Liste. Am Sitzplatz darf dann die Maske abgenommen werden.

Von der nicht unbedeutenden Zahl der Mitglieder der Deutsch-Japanischen Gesellschaft in Baden-Württemberg sind 11 gekommen, einige haben sich entschuldigt. Die Jahre 2019 und 2020 stehen zum Bericht und zu den nach Vereinssatzung verpflichtenden Vorgängen an. Die Vorsitzende Frau Dr. Susanne Germann berichtet über ein vergangenes gutes 2019, mit Shinnenkai, Vorträgen, Konzerten und Filmvorführungen. (11 Einzelveranstaltungen mit Film oder Vortrag und 2 Konzerte).

2020 gab es gerade noch Shinnenkai, alles andere musste abgesagt werden.

Rückblickend wurde noch einmal dem früheren Vorsitzenden (bis 2018) Herrn Wolfgang Grosse gedankt, der für seine Bemühungen im deutsch-japanischen Austausch von der japanischen Regierung mit dem Orden der Aufgehenden Sonne mit goldenen und silbernen Strahlen ausgezeichnet wurde. In den Jahren seiner Vereinsführung sei man gewohnt gewesen, dass alles von alleine läuft. Aber „von alleine läuft bekanntlich nichts.“

An frühere Aktivitäten anzuknüpfen, ist erst einmal nicht einfach – selbst unter Einhaltung der Corona-Bestimmungen. Für Veranstaltungen in Präsenz muss in ein der Größe ausreichender Raum gefunden – und bezahlt werden. Für Online-Veranstaltungen fehlt bisher das Knowhow. Dazu „lebt“ der Verein vom Zusammenkommen der Mitglieder.

Die Zahl der Mitglieder hat sich nahezu stabil gehalten, ebenso die Einnahmen und durch die weggefallenen Ausgaben ist ein finanzielles Polster für die Zukunft geblieben. Nicht absehbar ist jedoch die Mitgliederzahl wenn weiterhin nichts stattfindet. Die finanzielle Unterstützung durch das japanische Generalkonsulat ist ein wichtiger, verlässlicher Baustein.

Zu den Erschwernissen durch Corona kommen auf die Vereinsführung weitere Belastungen hinzu. Die Finanzbehörden wollen zukünftig jährlich eine Steuererklärung (und nicht mehr alle drei Jahre). Dazu müssen die Vorgaben für die Ausgabenbelege strenger eingehalten werden. Bei der Geldbeschaffung bei Sponsoren ist erschwerend hinzugekommen, dass ein Vorhaben bereits bei der Antragstellung detailliert beschrieben und die genauen Kosten aufgelistet werden müssen.

Trotzdem - oder gerade deshalb - werden Veranstaltungen mit Referenten oder in Kooperationen für die kommenden Monate anvisiert, zu für ein Publikum interessanten Themen, Natur, Umwelt, Demographie und Konzerte.

Frau Dr. Susanne Germann geht dies „mit schwäbischer Gründlichkeit ohne große Worte“ gemeinsam mit dem Vorstand und mit tatkräftiger Unterstützung ihres Ehemanns, Herrn Jürgen Germann an.

Erläuterungen:

Die JDG Baden-Württemberg wurde 1962 in Stuttgart als erste ihrer Art in Baden-Württemberg gegründet.

Frau Dr. Susanne Germann ist promovierte Japanologin und Diplom-Textildesignerin. Sie hat sich intensiv mit der umfangreichen Japonica-Sammlung von Erwin von Baelz (1849-1913) befasst, der Leibarzt des Meiji Tenno war. Sie hat mehrere Ausstellungen kuratiert, zuletzt über die Inro-Sammlung der Eigentümerfamilie des Maschinenbau-Unternehmens Trumpf. (8.10.2021)

全てがもはや以前のようにではない

会員 アンドレアス ケーレ・ヤンドル

2021年9月17日シュトゥットガルトで開催されたバーデン＝ヴュルテンベルク独日協会の会員総会のご報告をします。

会員総会が2年ぶりに再び開催されました。大きなホールに僅かなテーブル。(マスクを着用しての)参加に不可欠なのはもちろん接種証明並びに検査証明の呈示(いわゆる快癒済、接種済、検査済の3G)、それから手指の消毒と参加者リストへの記帳です。そうすれば座席でのマスクの取り外しが許されます。

同協会の僅かとは言えない会員数の内11名がやって来ました。何人かは不参加を届けてきました。2019年と2020年の報告と協会定款で義務付けられている案件が延び延びになっていました。ズザンネ・ゲルマン会長が、新年会、講演会、コンサート、映画鑑賞会のできたよき2019年の報告をしました(映画或いは講演を伴った11回の催しと2回のコンサート)。

2020年はかろうじて新年会はありましたが、その他のすべての催しは断念せざるを得ませんでした。

振り返って見れば改めてヴォルフガング・グロッセ前会長(2018年まで)に感謝です。彼は独日交流への尽力に対して日本政府より旭日双光章で顕彰されました。彼が協会を主催していた数年間で私たちは、すべてはまるで人手が不要であるようにスムーズに進むことに慣れてしまっていたの

です。しかし「周知のように、人手がないと何も進まない」。

先に述べた活動と関連させてお話しすれば、最初は簡単ではないのです—コロナ諸規制の遵守の下ですら。対面による催しのためにはその規模の大きさに十分な部屋を見つけ—料金を支払わなければならないのです。オンラインによる催しのためにはこれまでノウハウが不足しているのです。それは別としても会員が集まることによって協会は「生き生きと続く」のです。

会員数はほぼ安定を保ってきました。同様に収入も、催しが中止されて支出がなかったのが将来の為の財政上の蓄えが残ったままなのです。しかし引き続き何も催されなかったら、会員数の見通しは尽きません。日本の総領事館による財政上の支援が重要で頼りとなる土台なのです。

協会の運営ではコロナによる困難に別の負担が加わります。税務署は将来的に毎年納税申告を求めようとしています(もはや3年毎ではなく)。そのためには支出証明書の準則が今よりも厳しく守らなければならないのです。後援者での資金調達では次のことが加わりさらに困難になります。計画はすでに申請の際に詳しく記述し、詳細な費用リストを作らなくてはならないことによつて。

それにもかかわらず—あるいはまさにそれによつて—報告者によるあるいは連携による催しが今後数か月間は目指されています。参加者にとって興味深いテーマ、例えば自然、環境、人口統計学についての催しやコンサートが。

ズザンネ・ゲルマン会長は「大口なしのシュバーベンの徹底精神」で役員会並びに彼女の夫であるユルゲン・ゲルマン氏の精力的な支援と共にこれに取りかかります。

注釈

・バーデン＝ヴュルテンベルク独日協会は、バーデン＝ヴュルテンベルク州で最初の日独協会として1962年にシュトゥットガルトで設立されました。

・ズザンネ・ゲルマン会長は博士号を持つ日本学者でありテキスタイルデザイナーの学位をお持ちです。彼女は、明治天皇の侍医であったエルヴィン・フォン・ベルツ(1849～1913)の莫大な日本趣味の収集物に取り組んできました。彼女は幾つかの展示会のキュレーターを努め、最近では機械製造会社トルンプの所有一家の印籠収集についてキュレーターを努めました。

(会員 湯浅恵理子訳)

☆今回もドイツのボーデン湖畔のフリードリヒスハーフェン Friedrichshafen にお住いの会員 Andrea Kehle-Jandl さんから、所属しているバーデン＝ヴュルテンベルク独日協会の総会の様子とコロナ禍での協会活動について事情を知ることのできる時宜を得たご寄稿をいただきました。ありがとうございました。

Stammtisch mit Zoom

ドイツで Augenoptikermeister の資格を取得：久利 将輝

今回登場していただくのは、神戸の中心地・三ノ宮センター街にある老舗の眼鏡店、マイスター大学堂の久利 将輝(くり まさてる)さんです。お祖父さんの代に店を構えて3代目。阪神大震災の翌年、1996年の春、大学を卒業するとマイスター資格を取りたいとドイツへ。まずはフライブル

クでドイツ語の勉強。その後、職場を探すためミュンヘンに移ります

ドイツでマイスターの資格を取得する仕組みは、基礎教育を終えた後、レアリング(Lehrling、見習い)として就職し、働きながら基礎職業学校(Berufsschule)に通って、実践と理論の両方を身につけるというデュアル・システム(Dual System)です。幸い、働く店は見つかったものの、この3年が大変でした。専門用語以上に大変だったのが一般教養。2001年に卒業し、ゲゼレ(Geselle、熟練技術師)となりました。

次がマイスター学校(Meisterschule)ですが、マイスター学校に入るには、その前に1年間の実務経験が求められます。

マイスターという言葉は今では日本でよく耳にし、「最高技術者」くらいの意味で使われています。ドイツでも最高の技術がマイスターに求められていることは変わりありませんが、マイスターの資格を有する者は、1. 最高の技術を持ち、2. 店を営むことができ、3. 後進の指導に当たります。ですからマイスター学校での勉強も専門分野だけでなく、簿記や法律、心理学に至るまで多岐にわたります。

2005年にマイスター試験を受けますが、実技での目の測定は、授業のように受講生同士が互いを測定するのではなく、老眼の測定もするため50~60代の希望者を対象にします。

ひと通りの筆記試験と実務試験の後に、口頭試問があります。久利さんがテーマに選んだのは「多焦点レンズの構造とフィッティング」でした。まずまずうまくいったと思ったところへ、「同じことを日本語で説明してください」と言われて、焦ったそうです。試験後に質問の意図を尋ねますと「君は将来日本で仕事をするので、日本語でも同じように説明が出来るのかを知りたかった」というのが、先生の答えでした。

そして2006年に帰国されて、現在、店に立っておられます。まさに苦節10年！

以前、ドイツでは保険で眼鏡を作れると聞きましたが…という質問に、2000年頃に法改正があり、今は保険の対象となるのは子供と、強度の度数の場合だけだそうです。

眼鏡についての国家資格は、ヨーロッパやアメリカにはあり、中国も最近、資格を設けたそうですが、日本はないそうです。日本でドイツのマイスターの資格を持つ方は、42年前に最初に資格を取られた、叔父の久利七男(ななお)さんをはじめ、今でもわずか数名。

最近多くある眼鏡チェーン店との違いを尋ねると、測定機器やレンズ加工機が良くなっており8割程度の性能の眼鏡が誰でも作れるようになってきているが、残りの2割に対応するのが専門家。若いうちは、2割は目の筋肉が自分で補正しているとのこと。

もっと詳しく知りたい方は「眼鏡マイスターへの道」(神戸新聞総合出版センター 900円+税)をお読みください。神戸日独協会でも数冊お預かりしています。(理事 押尾愛子)

11月のStammtisch mit Zoomのお知らせ

日時：11月20日(土)午前10時~11時

話題提供：会員 小野 真理さん(ドイツのオケでバイオリンを弾いていました)

Zoomアカウントをお持ちの方は、Zoomを開いて「ミーティングに参加」ボタンを押し、下記のミーティングIDとパスコードを入力してください。

神戸日独協会 Stammtisch mit ZOOM

<https://us02web.zoom.us/j/85366355191?pwd=N05kSTI1bIVkYkNqc2kvQmd5VjIPQT09>

ミーティング ID: 853 6635 5191

パスコード: 393924

参加は無料で、事前申し込みも要りませんので、ご参加ください。

12月以降の予定

12月18日(土)会員 平木 ひろみさん(ドイツで Volkshochschule に通いました)

ドイツ語談話室

第204回ドイツ語談話室

日時 : 2021年10月16日(土) 14-16時

場所 : 神戸日独協会 会議室

テーマ : 少子化

今回の司会は松浦庸夫氏が担当され、まず内閣府が出している人口問題についてのデータを基に、現状の少子化が続いた場合の将来像と、少子化対策を取って出生率が回復した場合の推測値について説明された。続いて参加者の皆さんが少子化問題についての意見を出された。以下に皆さんの意見の一部を紹介する。

—ヨーロッパ諸国でも、少子化対策としていろいろな手が講じられている。子供手当ほか、子育てに関する経済的負担の軽減策、等々。

—日本でも教育への支援がもっと多くなされるべきである。ヨーロッパ諸国では、小学校から大学まですべて無償の国が多く、参考にすべきだ。

—若者たちの生活に対する考え方が変わってきている。家族を持って子供を育てるより、自分自身のキャリアに重きを置く若者が増えてきている。

—家族といったものに対する考え方が変わってきて、家族より個人としての自分の人生に重きを置く選択をする。

—先進国では、多くの若者が結婚をしたいと思はなくなってきていて、当然子供の数が増えないことになってくる。

—地球レベルで考えると、先進国の出生率は低くなってきているが、後進国では子供が多く、人口爆発問題を抱えている。

—多くの後進国では、食べてゆくために、労働力としての子供が必要で、必然的に出生率は高くなってくる。

—日本の出生率は低く、1990年に1.5であったものが、減少傾向が続いていて、今は1.34以下になってきている。

—日本では教育費が大変高いので、子供を増やすためには、教育費に対する経済援助が必要。

今後のドイツ語談話室の予定

第205回 2021年11月20日(土) 14-16時 テーマ:世界の新しく生まれた政府
第206回 2021年12月18日(土) 14-16時 テーマ:新年への期待

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 204. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag, 16. Oktober 2021, 14 bis 16 Uhr

Thema: Abnehmende Geburtenzahlen

Dieses Mal hatte Herr Tsuneo Matsuura die Gesprächsleitung und zeigte zuerst offizielle Daten zur japanischen Bevölkerungsentwicklung. Er sprach von Prognosen, je nachdem, ob es wieder zu Zunahmen kommt oder aber die geringen Geburtenzahlen weiterhin anhalten.

Hier einige Wortmeldungen der Teilnehmerinnen und Teilnehmer:

- Auch in europäischen Ländern werden Maßnahmen ergriffen, wie z.B. finanzielle Unterstützung durch Kindergeld, Erziehungsbeihilfen, etc.
- Die japanische Regierung sollte die Unterstützung erweitern. Viele europäische Länder bieten eine kostenlose Erziehung von der Grundschule bis zur Universität.
- Die Einstellung zum Leben hat sich bei vielen jungen Menschen geändert. Für viele steht eine berufliche Karriere eher im Vordergrund als die Gründung einer Familie.
- Die Einstellung zur Familie an sich hat sich geändert. Viele junge Menschen stellen das eigene Leben in Kontrast zu einem Familienleben.
- Besonders in den industrialisierten Ländern nimmt der Wunsch zu heiraten ab. Das könnte ein Grund dafür sein, dass die Kinderzahl abnimmt.
- Weltweit ist die Geburtenzahl in stark industrialisierten Ländern niedrig, in weniger industrialisierten Gesellschaften ist sie weiterhin hoch, hier entstehen Probleme durch Überbevölkerung.
- In weniger industrialisierten Ländern brauchen die Familien ihre Kinder als Arbeitskräfte. Das fördert die Tendenz zu hohen Geburtenzahlen.
- Die Geburtenrate in Japan ist sehr niedrig. 1990 stand sie bereits bei 1,5 und hat seither weiterhin abgenommen. Im letzten Jahr lag sie bei 1,34.
- In Japan sind die Erziehungskosten enorm hoch. Ohne größere Unterstützung wird es wohl zu keinem Anstieg bei den Geburtenzahlen kommen.

Nächste Treffen:

Samstag, 20. November, 2021, 14 bis 16 Uhr, Thema: Neue Regierungen in der Welt

Samstag, 18. Dezember, 2021, 14 bis 16 Uhr, Thema: Erwartungen an das neue Jahr

神戸日独協会会議室の使用について

神戸日独協会は、協会会議室を使用していない時間帯に会員の方に使用していただいています。これをご存知でない会員もいらっしゃると思いますので、改めてご紹介させていただきます。会議室は、週日の夜間にはドイツ語講座の教室として使用されていますが、平日・週末の午前・午後の多くの時間帯は利用されずにいます。かねてより協会財政の一助にと「使用規定」を定めてご利用に供しています。会員同士の、会員を中心にした集まり、サークル等に是非ともご利用ください。使用の詳細については、事務局にお尋ねください。

神戸日独協会会議室使用規定（2016.4.15改訂）

1. 使用許可基準
 - 1). 神戸日独教会(以下本協会)の活動趣旨である日独の交流に資するものに限る。
 - 2). 本協会の法人会員および個人会員が主催する会合等に限る。
利用者に会員外の方が含まれても可。
 - 3). その他役員会が適当と認めたもの。
2. 使用時間
 - 1). 本協会の主催および共催する講座・教室・行事・会合のない時間帯に限る。
 - 2). 午前10時から午後9時まで、1時間単位とする。
 - 3). 閉室日は原則として使用できない。閉室日および午前の使用については、使用者が開閉等の管理を行う。
3. 使用料金
 - 1). 一時間につき1500円とする。
 - 2). 光熱料を含むが、消費税は含まない。
 - 3). コピー機等備付機器の使用料は含まない。
4. 使用手続き
 - 1). 申込先：神戸日独協会事務局
 - 2). 所定の「神戸日独協会会議室使用願」を使用日の1週間前までに提出し、本協会の許可を得ること。
 - 3). 申込後の使用変更・取消しは速やかに連絡すること。
5. その他
 - 1). 使用による部屋及び備品の損傷は、使用者の負担にて原状回復しなければならない。
 - 2). 本協会員以外への又貸しは認めない。

事務局からのお知らせ

会報印刷・発送ボランティア募集

会報の印刷と発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の印刷と発送は**12月9日(木)**を予定しています。お手伝いいただける方は事前に事務局へご連絡下さい(TEL 078-230-8150)。

- 印刷： 兵庫県国際交流協会作業室(神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
国際健康開発センター2階、県立美術館西隣)にて、10:30より1時間半程度
- 発送： 神戸日独協会にて、12:30より2時間内程度